

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	診療放射線技師学科(夜間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	前期	教室名	第3校舎 801教室
担 当 教 員	星野 貴志	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖生理学では、診療放射線技師として医療にたずさわるために必要な生体の構造と機能、免疫システムについて学ぶ。特に重要と考えられる肉眼的解剖について、名称、形態、相互の位置関係等を習得する。解剖生理学 I では、生命の基礎単位である細胞の構造と機能、人体を構成する組織、器官の構造と機能の全体像を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(70%) 出席点(20%) 平常点(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書「入門人体解剖学」藤田恒夫 著 南江堂  参考図書「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄 著 成美堂						
《授業外における学習方法》						
シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、使用教科書等を用いて事前学修(予習・復習)すること。						
《履修に当たっての留意点》						
解剖生理学は医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広い知識が問われます。授業のみでは理解は深まりませんので、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の解剖学名を列挙できる。 人体の基本単位である細胞のはたらきについて説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。	
		各コマにおける授業予定	解剖学概論、解剖学用語 医学の中における解剖学の足跡と解剖学名を理解する。 人体の基本単位、人体を構築している仕組みを理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体を構築する各器官系について説明できる。 身体の方向用語と各解剖学名称を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。	
		各コマにおける授業予定	細胞・組織・器官・器官系 身体の区分と名称			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の肉眼的構造を説明できる。関節の構造と運動を関連して説明できる。頭蓋骨の基本的配列を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。	
		各コマにおける授業予定	骨格系① 骨の構造、関節の形態としくみ、頭蓋骨			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の基本構造を説明できる。各椎骨の特徴を説明できる。 肋骨の連結と胸郭の構造を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。	
		各コマにおける授業予定	骨格系② 脊柱、胸郭(肋骨・胸骨)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨、鎖骨の形態と他の骨との関節を説明できる。 手根骨を構成する骨を列挙できる。橈骨と尺骨の形態とを説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。	
		各コマにおける授業予定	骨格系③ 上肢の骨格			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨盤の構造、股関節の特徴を説明できる。 大腿骨、下腿骨、足骨の特徴を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	骨格系④ 下肢の骨格		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉の種類を概要を理解し、説明できる。 筋の起始・停止と機能について説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	筋肉とは、構造と種類、随意筋と不随意筋、筋の補助装置		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	動・静脈の概念を説明できる。血管の構造を説明できる。 動脈、静脈の形態区分、機能の違いを説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	脈管系① 循環器系の概要、血管の構造		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の動脈、静脈の走行と分布域を説明できる。 心臓の形態的特徴から、各部位の機能を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	脈管系② 全身の血管(動脈・静脈)、心臓の構造、肺循環と体循環		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の成分と機能について説明できる。 体液とその区分、体液の調整法について説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	血液の成分とはたらき 体液とは、体液の調整		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体防御機構について説明できる。 リンパ管の概念、機能を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	生体の防御機構 非特異的防御機構と特異的防御機構(免疫系) 全身のリンパ系、リンパ組織のしくみ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	鼻腔、咽頭、喉頭の構造を説明できる。 気管、気管支、肺の構造を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の概要、呼吸のしくみ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化管の基本構造を説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	消化器系① 消化器の概要		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化管各部位の構造と機能について説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	消化器系② 消化と吸収のしくみ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	体液とその区分、体液の調整法について説明できる。	教科書 配布資料	プリントを配布するので、復習しておくこと。 講義で配布する資料のみではなく、教科書等を用いて理解を深めること。
		各コマにおける授業予定	体液とは 体液の調整		

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	診療放射線技師学科(夜間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	前期	教室名	第3校舎 801教室
担 当 教 員	星野 貴志	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖生理学では、診療放射線技師として医療にたずさわるために必要な生体の構造と機能、免疫システムについて学ぶ。特に重要と考えられる肉眼的解剖について、名称、形態、相互の位置関係等を習得する。解剖生理学 I では、生命の基礎単位である細胞の構造と機能、人体を構成する組織、器官の構造と機能の全体像を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(70%) 出席点(20%) 平常点(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書「入門人体解剖学」藤田恒夫 著 南江堂  参考図書「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄 著 成美堂						
《授業外における学習方法》						
シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、使用教科書等を用いて事前学修(予習・復習)すること。						
《履修に当たっての留意点》						
解剖生理学は医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広い知識が問われます。授業のみでは理解は深まりませんので、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	同化作用と異化作用、酵素、エネルギー代謝について説明できる。 栄養素について説明できる。体温調節について説明できる。	教科書 配布資料	次回のまどめプリントを配布するので、事前に予習しておくこと。 当日は、講義内容を自分なりに咀嚼・理解し、確実に習得していくこと。	
		各コマにおける授業予定	物質代謝とエネルギー代謝、栄養とエネルギー、体温調節			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の生成、体液調節、排尿機能について説明できる。	教科書 配布資料	次回のまどめプリントを配布するので、事前に予習しておくこと。 当日は、講義内容を自分なりに咀嚼・理解し、確実に習得していくこと。	
		各コマにおける授業予定	泌尿生殖器系① 泌尿器の概要			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器の構造について説明できる。	教科書 配布資料	次回のまどめプリントを配布するので、事前に予習しておくこと。 当日は、講義内容を自分なりに咀嚼・理解し、確実に習得していくこと。	
		各コマにおける授業予定	泌尿生殖器系② 生殖器の概要			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホルモンの種類を列挙できる。 内分泌器官の構造とホルモンの機能について説明できる。	教科書 配布資料	次回のまどめプリントを配布するので、事前に予習しておくこと。 当日は、講義内容を自分なりに咀嚼・理解し、確実に習得していくこと。	
		各コマにおける授業予定	内分泌系の概要			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経の区分について説明できる。 末梢神経の基本を説明できる。	教科書 配布資料	次回のまどめプリントを配布するので、事前に予習しておくこと。 当日は、講義内容を自分なりに咀嚼・理解し、確実に習得していくこと。	
		各コマにおける授業予定	神経系① 神経伝達のしくみ、中枢神経系と末梢神経系			

